# 相模湾における漁業資源管理について

22211063　遠藤颯馬

## はじめに

いま日本の漁業現場では漁獲量の減少や高齢化問題、後継者の問題など多くの問題を抱えている。このような問題に対して今現在どのような対策を行っているか、そしてその対策の有効性はどの程度あるのかを調査・検討する。

## 本研究の意義

本研究で解明したいことは、漁獲量の変化や今と昔で獲れる魚の違い、相模湾ならではの獲り方、地球温暖化の影響、乱獲、後継者問題、これらの問題への対策などである。なぜなら、これらの問題を調査することは、漁業資源管理方法の課題と現状を知ることであり、今後の日本の漁業の方向性を考えることにつながるからである。

## 相模湾ついて

相模湾は神奈川県の西部にある、太平洋に向けた湾。海岸部は三浦半島西岸から湘南地方を経て真鶴岬に至る。特徴は富山湾、駿河湾とともに日本３大深湾と呼ばれえており、深いところで1000m以上の水深がある。特に、小田原以西の相模湾は岸から少し離れると急に深くなるという特徴がある。このため、海岸近くでも漁をするのに十分な水深があり、港から3.40分程度の近場で漁や釣りをすることができる。

## 相模湾に生息する海洋生物

生息している魚として、アジやサバ、カツオ、マグロなどが黒潮に乗って来遊する。また、水深200mより深い海域が多く、スミヤキやアンコウ、オキツケ、キンメダイといった深海性の魚が生息している。

## 神奈川漁業の概要

神奈川県の漁業生産量は約2万9千トン（平成30年）で、沿岸漁業は約38%、沖合漁業が1%、遠洋漁業が57%、養殖が４%となっている。その中で相模湾では主に沿岸漁業が盛んとなっている。沿岸漁業は、陸から近い海域で行われる漁業で、日帰りでの操業となる。相模湾の沿岸漁業では定置網が主流である。特定の場所に恒常的に網を張り、中に入った魚を漁獲する定置網漁が行われている。沿岸漁業の中では規模が大きく10人から20人程度の人手を要するものである。

## 今後のスケジュール

夏の期間を使って、現場に行きインタビュー調査を行う。インタビュー対象地として、水産技術センター、神奈川県漁業協同組合連合会の2か所である。